



82kg 級と 87kg 級で
2 階級制覇

大会 3 日目、グレコローマンスタイル 87kg 級に出場した鶴田峻大 3 等陸曹は第 1 シードで準決勝からの出場。初戦をポイント 12-3 のテクニカルフォールで勝利し、決勝へ。決勝はノーシードから勝ち上がってきた谷崎匠選手（山梨学院大学）との戦いとなった。前半、谷崎選手への指導により鶴田 3 曹が 1 ポイントを先取すると続けて 2 ポイントの技を 2 回決め 5-0 とした。後半に 1 ポイントを返されたが、最後まで攻めきり優勝を勝ち取った。

試合後、鶴田 3 曹は「自衛隊体育学校が優勝を独占してきた階級なので守りきれてホッとしている。自分のレスリングはほとんどが体育学校で教わったこと。体育学校ならではの強さも見せたい。世界選手権では 5 位以内に入り今後の自信に繋げたい。」と締めくくった。

失点なしの

完全優勝

大会最終日、グレコローマンスタイル 82kg 級に出場した向井謙起陸士長は初戦をポイント 9-0、準決勝を 8-0 と圧倒的な強さで勝ち上がり、決勝へ進んだ。決勝は昨年 12 月の全日本選手権と同じく川村洋史 3 等陸曹との同門対決となった。一時は向井士長がポイント 10-0 としたが、グレコローマンスタイルでは禁じられている足を使った攻撃であるとされ、2-0 からの仕切り直しとなった。その後、さらに向井士長が 2 ポイントを追加し 4-0 と本大会無失点で初優勝を決めた。

試合後、向井士長は「優勝できて嬉しい。失点もなく攻めることができて良かったが、弱いと感じる部分もあった。世界選手権では自分のレスリングがどこまで通用するかを試しつつ、結果にこだわりたい。」と意欲を示した。



実力発揮し
圧巻の勝利

女子フリースタイル 72kg 級に出場した古市雅子 3 等陸尉は、第 1 シードで初戦（準決勝）をポイント 8-0 で勝利し決勝に駒を進めた。決勝は新倉すみれ選手（神奈川大学）との対戦となった。序盤から果敢に攻めた古市 3 尉は、相手に隙を与えず終始ペースを握りポイントを重ね、最後はフォール（相手の肩を 1 秒マットにつける）で相手を沈め、圧巻の強さで優勝を飾った。

古市 3 尉は「世界選手権がかかっていたので、しっかり優勝できてよかった。2019 年の世界選手権では同階級で 3 位に終わったので、今度は優勝できるように頑張りたい。」と話し、決意を新たにした。

勝ちにこだわり

出場権獲得

昨年 12 月に行われた全日本選手権のフリースタイル 79kg 級で優勝した吉田隆起 2 等陸曹は、本大会では惜しくも初戦（準決勝）敗退を喫した。代表決定プレーオフは日ごとに全試合終了後、同日中に実施される。プレーオフの相手は本大会優勝者の高橋夢大選手（日本体育大学）、世界選手権の代表権をかけた戦いはポイント 3-2 の大接戦の末、吉田 2 曹が辛勝し出場権を獲得した。

吉田 2 曹はプレーオフを「どんな試合内容でもとにかく勝つことにこだわっていたので、勝ちきれてよかった。」と振り返り、世界選手権に向けて「怪我を治し、1 番いい状態で出場する。目標は優勝、いけるところまでいきたい。」と活躍を誓った。



総合成績（メダリストのみ）

フリースタイル	グレコローマンスタイル	女子フリースタイル
優勝 125kg 山本泰輝 2 等陸曹 (静岡県)	優勝 77kg 櫻庭功大 2 等陸曹 (秋田県)	優勝 72kg 古市雅子 3 等陸尉 (熊本県)
第 2 位 57kg 藤田雄大 2 等陸曹 (三重県)	優勝 82kg 向井謙起 陸士長 (広島県)	第 3 位 53kg 奥野春菜 2 等陸曹 (三重県)
第 3 位 57kg 新井陸人 2 等陸曹 (栃木県)	優勝 87kg 鶴田峻大 3 等陸曹 (長崎県)	第 3 位 65kg 今井海優 3 等陸曹 (京都府)
第 3 位 74kg 高谷大地 3 等陸尉 (京都府)	第 2 位 72kg 堀江耐志 陸士長 (和歌山県)	
第 3 位 97kg 園田 平 2 等陸曹 (滋賀県)	第 2 位 82kg 川村洋史 3 等陸曹 (静岡県)	
	第 3 位 67kg 井ノ口卓之 3 等陸曹 (京都府)	
	第 3 位 97kg 志喜屋正明 2 等陸曹 (沖縄県)	

